

はじめに

横浜は現場主義、生活主義、元気主義！～安心と活力をともに生み出す～

このたび、平成 22 年度予算案をとりまとめました。経済環境の急激な変化や少子高齢化の進展などにより、様々な影響や不安が市民生活にひろがっています。だからこそ、生活の現場で今何が必要とされているのかをしっかりと感じ取り、小さな取組であっても、**生活の大きな安心を実現させる**。そして、**市内経済を支え、地域の元気を生み出す**。この両輪で進めていくという強い思いを形にしました。日々の暮らしが良い方向に変わってきた、と市民のみなさんに実感していただけるよう、着実かつ大胆に取り組んでまいります。

予算案のポイントは次のとおりです。

ポイント 1【緊急的な状況への迅速な取組】

安心して生み育てられる横浜を、今すぐにでも実現したい。待機児童の激増、出産場所や万が一のときの受け入れ先が見つからない、そんな状況を一刻も早く解消するため、**保育所待機児童の解消、産科・小児医療、救急医療体制の充実**に向けて、第一線で働く職員によるプロジェクトチームで検討を重ね、**子育て支援を充実させました**。そして、**きめ細かな教育の推進**のために、いじめや不登校など多様な課題に組織的に取り組む体制を整えるとともに、円滑な学級運営のための学校支援を拡充することにしました。

社会経済情勢が厳しい中で、その影響をまともに受け、本当にご苦労なさりながら、事業を営む方たち、そこで働く方たちをしっかりとご支援することも、今すぐ取り組むべき、切実な課題です。そこで、**緊急経済対策として**、市内中小企業への融資や雇用創出の充実などを進めます。道路や学校の修繕、公園再整備など社会資本の長寿命化にも取り組み、市内経済の下支えをしていきます。

ポイント 2【地域での安心した生活の実現】

横浜で暮らす誰もが、地域でのつながりを大切に、安心して暮らしていけるよう、「将来にわたるあんしん施策」など生活に密着した施策を着実に進めます。「高齢になっても、障害があっても地域で生き生きと暮らしたい」これは、市役所を飛び出し、現場を歩き回った中で、最も切実で多くの方が期待していることでした。そこで、着工を先送りしていた一部の**地域ケアプラザやコミュニティハウスの整備、地域療育センターの基本設計、重症心身障害児施設整備に向けた調査**をスタートさせます。新型インフルエンザなどの対策や食の安全を守る機能充実に向けて、**衛生研究所の再整備**にも着手することにしました。

ポイント3【元気な横浜であるために】

まず、足元の**地域経済が活性化**すること。これがあって、将来の横浜は元気になるのです。人と人がつながり、町を元気にする「商店街」の活性化を応援します。羽田空港国際化やAPEC横浜開催を絶好の機会として最大限活用し、観光・コンベンション、企業誘致を強力に進めていきます。横浜の魅力をタイムリーにアピールし、新たなビジネスや雇用のチャンスがあふれるまちにしていきます。

将来の横浜を元気にするための投資も着実に進めます。戦略的な企業誘致や環境分野の産業振興を促進するとともに、中長期的な視点に立ち、「**横浜港のハブポート化**」「**横浜駅周辺大改造計画**」を進めます。また、脱温暖化の一層の推進など環境に負荷をかけないまちづくりや、身近な地域・元気づくりの推進など多様な地域づくりに取り組んでいきます。

ポイント4【財政健全性の維持】

財政状況がいかにか厳しくても、必要な市民サービスを簡単にはやめない、という覚悟で臨んだ予算編成でした。そのために、約530億円という、ここ数年で最大の収支不足をいかに乗り切るか、この4か月間、議論に議論を重ね、全庁的な「しごと改革」に、職員一丸となって徹底して取り組み、例年以上の成果を出しました。

日々の暮らしに軸足をおいた**市民サービスの提供と、財政健全性の維持を両立させるため、思いきった内部経費の切り込みや事業の見直し**に加え、**緊急避難的な対応策として市債発行額を増やすことを決断**いたしました。

今後とも更に厳しい財政状況を覚悟し、これまで以上に改善・改革の取組をアタリマエのこととし、新たな歳入確保や事業の抜本的な見直しも進めていきます。そして、将来世代の負担増につながらないように、中長期的な視点をもって、市政を運営していきます。

昨日よりも今日、今日よりも明日と、市民のみなさんの暮らしが充実するように、そのことに何よりも重きをおいた予算案としました。一人ひとりの市民のみなさんの力とつながりが、開港以来培われた横浜の財産です。そのエネルギーと絆を一層強いものとして、明るい未来をともに創っていきましょう。

平成22年2月4日

横浜市長 林 文子